

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan

TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

報道各位

平成25年7月吉日

トミオ・セイケ 写真展

「Timeless Time」

2013年 9月14日(土)～ 12月7日(土)

1:00PM～6:00PM 入場無料

休廊 日・月曜日 および 9月24日～28日

ブリッツ・ギャラリー

〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-20-29 TEL 03-3714-0552

JR目黒駅からバス、目黒消防署下車徒歩3分 / 東急東横線学芸大学下車徒歩15分

このたびブリッツ・ギャラリーは、欧米のアート写真シーンで活躍している写真家トミオ・セイケの新作写真展「Timeless Time」(タイムレス・タイム)を開催します。本展では、2012年11月に集中的に撮影されたチェコ・プラハのシティースケープが展示されます。この地を訪れる多くの写真家は21世紀の現代に中世の面影が残るシーンを探し求めます。現代の痕跡を覆い隠すために夜間の写真が多いのも特徴です。しかし、セイケはあえて、現在と中世の面影が混在しているプラハの街並みを昼間に撮影しています。彼は私たちに西洋文化の本質にもっと目を向けて欲しいと考えているのではないのでしょうか。多くの人が愛でる西洋文化の本質は、古いものを大事にしつつ新しいものを受け入れること。それは表層ではなく精神性にこそ意味があることを伝えたいのだと思います。

本作はコンパクト・デジタル・カメラ(コンデジ)とインクジェット・プリンターで制作されています。彼がデジタルに精力的に取り組んでいる背景には、最近の写真界におけるデジタル化の流れがあります。工業製品のフィルムはメーカーの都合でいつ生産中止になるかわかりません。しかし写真家はフィルムがなくなっても作品制作を止めるわけにはいきません。セイケは過去数年間にわたり、このような問題意識を持ってデジタル作品の可能性を追い求めてきました。最近では、急激なデジタル化の反動からアナログカメラ、銀塩写真を再評価する動きも散見されます。しかし、セイケは議論のポイントは銀塩かデジタルではないと考えます。最近の更なる技術進歩と多種類の専用用紙の市場への供給により、いまやデジタル作品であっても銀塩写真と何ら変わらないクオリティーを持つという確信があるのです。もちろんその前提には作家独自の表現をプリントで追求する絶え間ない努力が必要になります。

実際、当初はデジタルに否定的だった欧州のアート写真界でも認識が変化してきました。2011年にはロンドンの老舗写真ギャラリー、ハミルトンズでセイケのデジタルによる作品展が開催されて大成功を収めているのです。

セイケのデジタルカメラでの作品制作プロジェクトはシグマのDP2との出会いから始まりました。今回は全作がシリーズ最新型のDP3メリルで制作されています。大きな改善点はRAWでの撮影画像を直接モノクロに変換できる現像ソフトが追加されたこと。以前より、デジタル処理の過程が減ったことでイメージの描写力が更に増えています。ライカで知られるセイケがコンデジで作品制作することに違和感を覚える人もいるかもしれませんが。彼は私たちに、良い作品を制作するにはカメラ機材以上に作家のオリジナルなスタイル確立が必要であることを伝えたいのです。高価なライカと違い、DP3メリルはアマチュアでも購入可能です。しかし、本展の展示作品を見れば、同じカメラでもセイケのような写真世界の確立が容易でないことに気付くと思います。

本展では、シグマDP3メリルで撮影され、デジタル・アーカイバル・プリント(*)で制作された約20点が展示予定です。一部大判プリントも含まれる予定です。トミオ・セイケの最新のデジタル作品の世界をぜひご覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan

TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

(...2/2)

(*)デジタル・アーカイバル・プリント

写真家、専門家による厳しい管理下で、使用インク(顔料系)や無酸紙にこだわり、高品位インクジェット・プリンターで制作されるデジタルプリントのことです。銀塩写真なみの耐久性があるとされています。デジタル・ピグメント・プリントとも呼ばれます。

○ 写真展特別イベント

トミオ・セイケ・トーク・イベント 「シグマDPシリーズのすべて」

9月15日(日) 午後2時~4時

ゲスト福井信蔵氏

参加無料 完全予約制(参加希望者が多い場合は抽選となります)
約25名様程度を予定(立ち見の場合があります)

デジタル時代を迎えた欧米のアート写真界の最新事情、デジタルカメラで作品制作を手掛けるようになったきっかけや、シグマ製のコンデジの魅力をお話いただきます。またシグマのブランド・ディレクターを担当されたアートディレクターの福井信蔵氏をお迎えして、DPシリーズに関わる数々のエピソードを作家、参加者との質疑応答を行いながら伺ってきます。

トミオ・セイケ・プロフィール

トミオ・セイケは1943年東京生まれ。欧米の主要アート・ギャラリーのハミルトンズ(ロンドン)などと契約し写真展を定期的に世界中で開催している数少ない日本人作家です。

会社員を3年経験後、1970年に日本写真学園を卒業。アシスタントを経験後、1975年からフリーランス写真家となりました。その後イギリスに渡り1987年以降は東京とブライトンに居を構えています。現在は写真展、写真集を通しての作家活動を中心に行っています。

1982~1987年に取り組んだ「ZOE」シリーズで作家として注目されます。ロンドンのフォトグラファーズ・ギャラリーで初公開されて以降、ハミルトンズ(ロンドン)、ウェストン・ギャラリー(カーメル)、ツァイト・フォトサロン(日本橋)、コウジ・オグラ・ギャラリー(名古屋)、ギャラリーf5.6(ミュンヘン)など世界中で個展が開催されています。

その後、「Paris」1992年、「Waterscapes」2003年、「Glynde Forge」2006年、を相次いで発表し作家の地位を確立させます。欧米写真の伝統を踏まえた上に日本文化のエッセンスも感じさせる優れた作家性、卓越した撮影テクニック、自らがプリントする高い完成度の銀塩写真で世界中のコレクターを魅了し続けています。またほとんどの作品がライカで撮影されていることからカメラファンからも熱烈な支持を得ています。

2011年秋にはデジタル作品による「Overlook」をハミルトンズ(ロンドン)で開催しアート写真の新境地を開いています。

作品は、ヒューストン美術館、サンタバーバラ美術館、ヨーロッパ写真美術館、フランス国立図書館、ラザール・ナショナルバンク、エルトン・ジョン・コレクション、エルメス財団パーマネントコレクション等に収蔵されています。

以上

・お問い合わせ先 ブリッツ・ギャラリー <http://www.blitz-gallery.com> TEL 03-3714-0552
写真展の情報・画像はウェブサイト http://www.artphoto-site.com/inf_press.html でご覧いただけます。